
シナリオはどのようにつくられたか

2007年2月10日

なごや循環型社会・しみん提案会議 実行委員会
循環システム分析グループ

1. シナリオを構成する2つの基本テーマの選択

専門家チームでは、市民会議における包括的なシナリオ検討のため、まず、ステークホルダー間で意見の開きがあり、市民会議でその選択が迫られるような、基本となるテーマを2つ選択しました。(第5回ステークホルダー会議で決定)

(1) 1つ目の基本テーマ …発生抑制

下記の2つの理由から、指示文書にある10テーマのうち「**①発生抑制**」が、**基本テーマに適していると結論**づけました。

- 「ごみと資源の総量を減らすべき」、「ごみを減らすべき」は、多くのステークホルダーにとって関心のあるテーマであったこと。
- 「ごみとなる前の段階に重きを置くか」、「ごみとなった後の段階に重きをおくか」の議論はわかりやすい。

(2) 2つ目の基本テーマ …行政、市民・事業者の役割

2つ目のテーマは、過去のステークホルダー会議での討議（論点整理）で用いた“2つのくくり”からそれぞれ候補を出し、会議の討議でどのくらいそれぞれの候補に関わるテーマが議論されていたか？の視点で振り返った後に、投票により「**行政、市民・事業者の役割の大小**」を選択しました。

- 「モノの流れ」のくくりからの候補 「焼却のあり方」
- 「人・社会の関わり」のくくりからの候補 「行政、市民・事業者の役割の大小」【採用】

2. 2つの基本テーマの組合せによる4つのシナリオ

① 基本テーマの整理

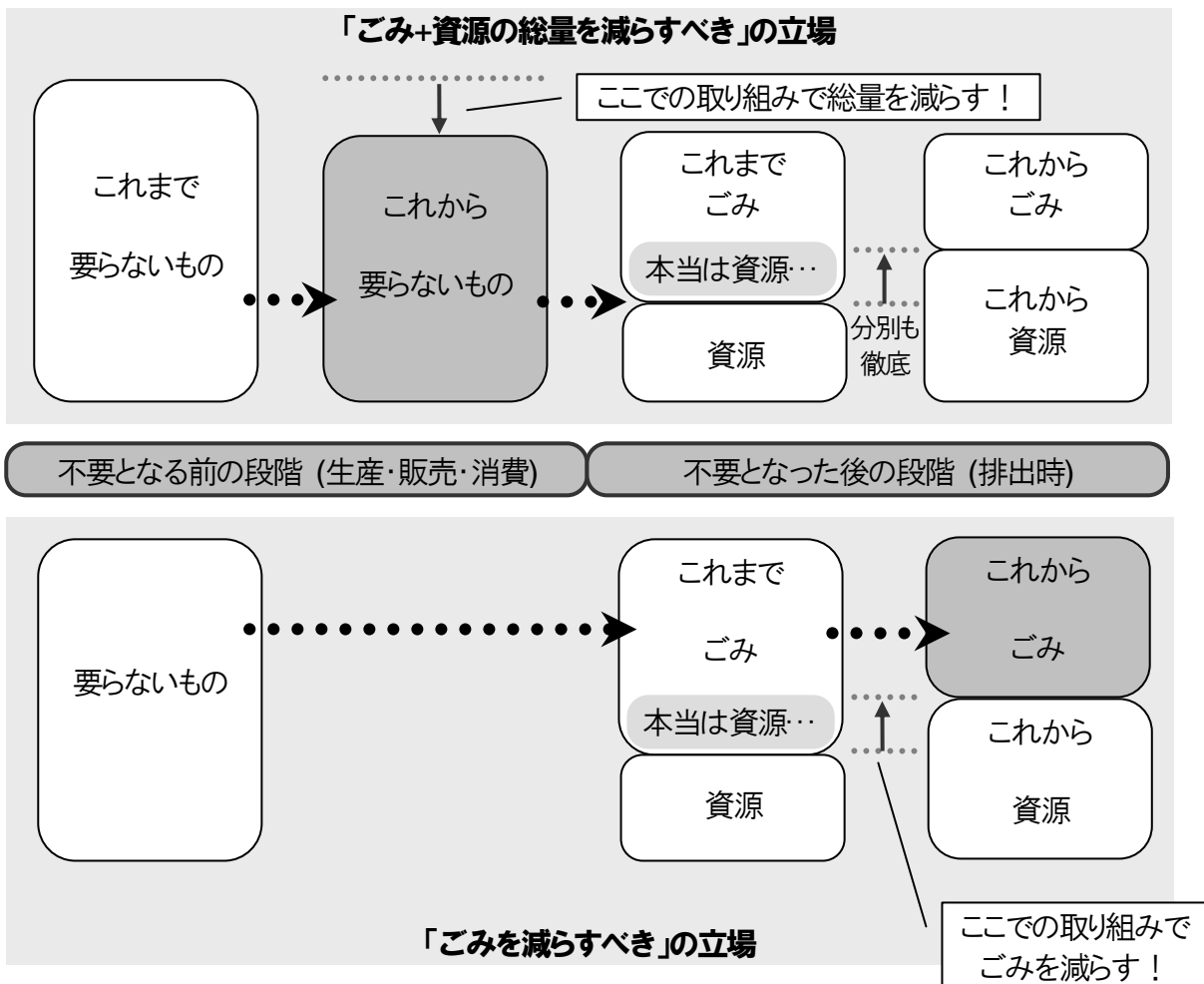
前述の1. で選択した2つの基本テーマについて、整理を行います。

(1) 発生抑制について

ここでの論点は、「ごみ+資源の総量を減らすべきか」、「ごみを減らすべきか」です。

まず、「ごみ+資源の総量を減らすべき」の立場をとる場合は、これまでのような『ごみとせず、資源としての分別を徹底する』ことはもちろん、不要なもの（ごみ・資源）そのものを減らすことが求められます。ここでは、**不要となる前の段階での取り組みが重要**となります。

一方、「ごみを減らすべき」の立場をとる場合は、これまで以上に『ごみとせず、資源としての分別を徹底する』ことが求められます。言い換えれば、**不要となった後の段階での取り組みが重要**となります。



(2) 行政、市民・事業者の役割について

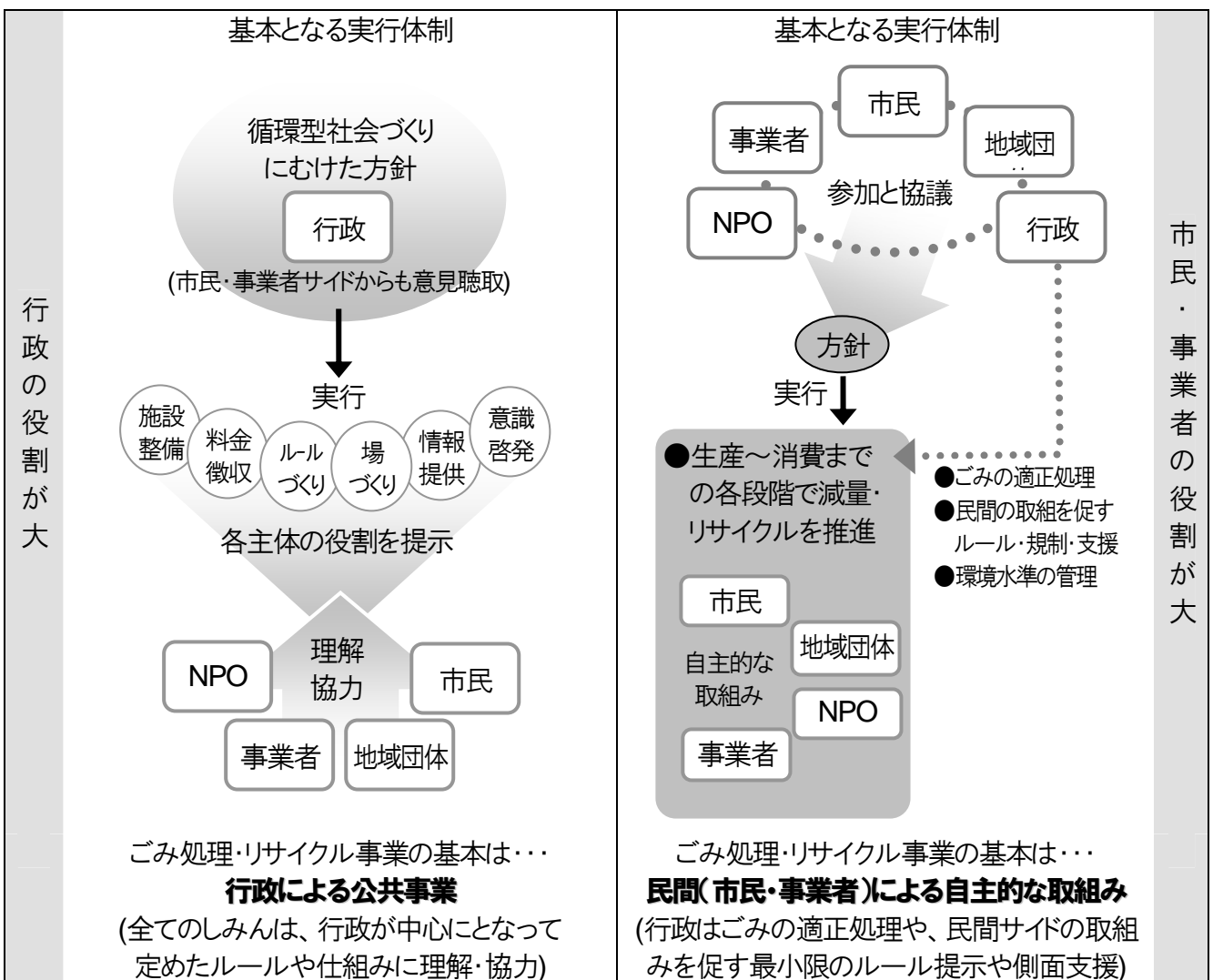
ここでの論点は、「行政、市民・事業者の役割の大小」です。

まず、論点を説明する前に、共通となる前提があります。下記の「行政の役割を大とすべき」、「市民・事業者の役割を大とすべき」のいずれの立場をとったとしても、なごやを構成する全ての主体=しみん（市民、事業者、地域団体、NPO、行政、…）の協働は不可欠です。

次に「行政の役割を大とすべき」と「市民・事業者の役割を大とすべき」の違いですが、一言でいえば、行政と市民・事業者の関係が異なります。ここで言う役割とは、社会的役割で、「主導して提案し、結果の責任を受け止める」という意味です。

「行政の役割を大とすべき」のシナリオでは、行政が専門家の知識・経験・情報を集め、具体的な政策案を作る上で比較的大きな役割を果たします。**行政以外のしみんは、政策案に対して意見を言ったり、決まった政策を実行する際に協力**してゆくシナリオです。

「市民・事業者の役割を大とすべき」のシナリオでは、**市民・事業者は自ら、なごやのごみ処理・資源リサイクルについてどのようにすべきか検討し、自ら実行**しますが、必要があれば、行政に対して必要な施策（例えば、より詳細な分別収集の徹底など）を行うように要求します。大事な点は、市民・事業者が要求して実施された施策の結果に対してある程度の責任を負うことです。



② 2つの基本テーマの組合せによる 4 シナリオの整理

シナリオは、2つの基本テーマの組合せにより、A～Dの4つを作成しています。

	行政の役割大	市民・事業者の役割大
<p>ごみ+資源の総量を減らす！ (ごみとなる前の段階で、発生抑制を進める。)</p>	<p>シナリオ B 行政による積極的な 3R 施策を 市民・事業者が理解し、 協力することで ごみ+資源の総量を減らす！</p>	<p>シナリオ A なごやを構成する全ての “しみん”による 3R 施策への 積極的な参画と実践により ごみ+資源の総量を減らす！</p>
<p>ごみの量を減らす！ (ごみとなった後の段階で、 分別を徹底する。)</p>	<p>シナリオ C 行政による積極的なリサイクル施策と、 全ての排出者(市民・事業者) の分別徹底により、 ごみ量を減らす！</p>	<p>シナリオ D なごやを構成する全ての “しみん”によるリサイクル施策へ の積極的な参画と実践により ごみ量を減らす！</p>

〈参考：第5回ステークホルダー会議における取り決めの詳細〉

●1 つめの基本テーマ

下表は、ステークホルダー会議がとりまとめた指示文書にある10のテーマについて、次に示すa～cの3つの条件の適合度合いを整理したものです。

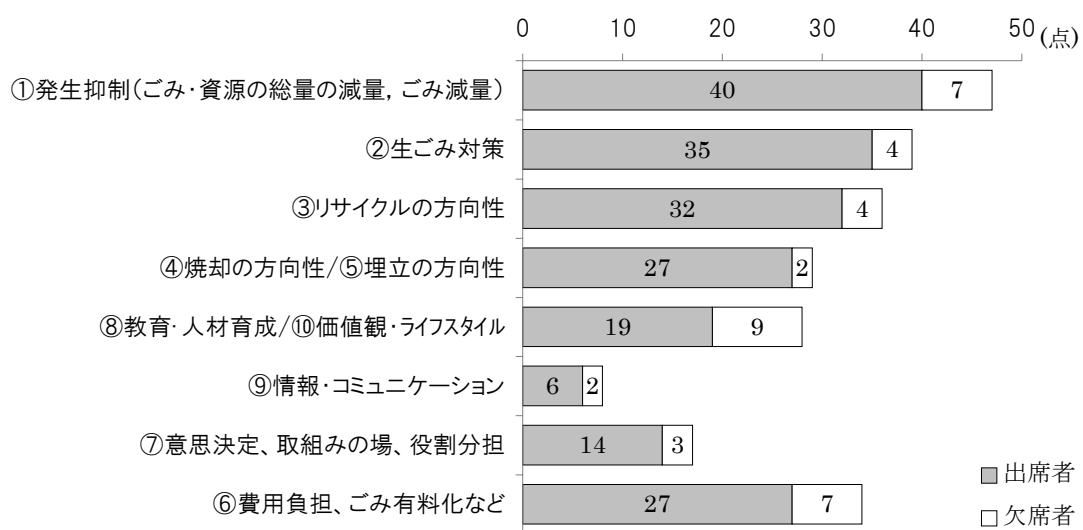
〈基本テーマとすべき3つの条件〉

- a. ゴミ・資源の流れ全体を包括するもの（特定品目のリサイクルや、特定の取組み・仕組みなど“対象が限定的なもの”でなく、全体を包括するもの）
- b. ステークホルダー会議における討議で“意見の開き”がみられたもの
- c. 多くのステークホルダーが“重要と考える”もの

指示文書のテーマ	a 特徴	b ステークホルダー会議での「意見の開き」について	c 重付投票順位
①発生抑制	全体	「ゴミと資源の総量を減らすべき」の意見に対し、「ゴミ減量を優先すべき」の意見が存在	1位 (1位)
②生ゴミ対策	個別	「発生抑制推進」はもちろん、「リサイクルすべき」の意見が多数（検討には前提条件や比較情報の具体化を求める意見が存在）	2位 (2位)
③リサイクルの方向性	個別	容器包装以外のプラスチックのリサイクル、中小企業対策(古紙など)を必要・重要とする意見が多数	3位 (3位)
④焼却の方向性 ⑤埋立の方向性	全体	焼却量、埋立量を可能な限り減らすべきとする意見は概ね一致。減らし方の考え方には、一部で意見の対立が存在。	4位 (5位)
⑧教育・人材 ⑩価値観・ライフスタイル	全体	なごやの“循環型社会づくり”には、必要・重要とする意見が多数	6位 (6位)
⑨情報・コミュニケーション	全体	全ての“しみん”による「情報共有・コミュニケーション」は必要・重要とする意見が多数	8位 (8位)
⑦意思決定・取組の場・役割分担	全体	「ゴミ処理は行政、リサイクルは企業・消費者が基本」、「地域の自発性を求めること」を必要・重要とする意見が多数	7位 (7位)
⑥費用負担、ゴミ有料化	個別	「有料化を導入すべき」の意見に対し、「導入すべきでない」の意見が存在	4位 (4位)

※重付投票の順位のうち、()書きのものは、第4回会議の欠席者の投票を加えた場合の順位を示す。

ステークホルダーによる重み付け投票の結果



※凡例の「出席者」「欠席者」は、第4回ステークホルダー会議への出欠を示す。

●2つめの基本テーマ

2つ目のテーマは、過去のステークホルダー会議での討議（論点整理）で用いた“2つのくくり”からそれぞれ候補を出し、投票にて1つを選択しました。

第3・4回のステークホルダー会議では、種々の論点を大きく「モノの流れ」と「人・社会の関わり」の2つに整理しているため、それぞれから候補を抽出し、これまでの討議内容の当てはめ具合などを吟味しながら、1つに絞込みました。

「モノの流れ」からの候補	「人・社会の関わり」からの候補
<ul style="list-style-type: none"> ●ここでは「焼却のあり方」をとりあげる。 ●「可能な限り減らすべき」とする意見は概ね一致したものの、その減らし方の考え方には、意見の開きがみられる。 ●その議論は、指示文書作成の間も継続しており、 <ul style="list-style-type: none"> →最終的な姿を「ゼロとする」の考えがある一方、「一定の位置づけを持たせる必要がある」 →目標設定において「15～20年後の焼却施設の数や能力(規模)について具体像を設定すべき」といった意見が出されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ここでは「行政、市民・事業者の役割の大小」をとりあげる。 ●「規制強化か、自発的な取り組みで行うべきか」については、レジ袋の削減方法などを題材にして議論されてきた。 ●頑張った人が得をする仕組みの是非、さらには有料化の賛否についての議論においても、上記と同様の議論がなされてきたと解釈する。

<ステークホルダーによる投票結果>

- 1人当りの持ち点(3点)を、2つの候補いずれかに振り分けるかたちで投票を行った結果、「行政、市民・事業者の役割」が選択されました。

